

平標山山行記録



急登の連続



仙ノ倉から谷川連峰



東谷山と日白山



実線：今回トラック／破線：2009年

目的地	平標山	期 日	平成23年4月13日（水）：晴れ
山行人	笠原正雄・高橋誠一・かよこ・伴場ちづ子	特 記	長岡北から高橋車に同乗。湯沢駅で伴場と合流。

地点名	時刻	記 事
三 国 小 学 校 脇	8:15 歩き出し	別荘地道路は除雪されていて舗装が出ていた。途中から雪に上がる。
ヤカイ沢に入る	8:47	岩魚沢林道から左折してヤカイ沢に沿う道に入る。
立 ち 休 み	9:15	切り拓かれた雪原を緩やかに登る。右の尾根への取付き場を思索しながら進む。
沢 を 越 え る	9:55	写真撮りのため皆の先に出了。ここを右に上がろうとしたのだが、3人がさっさと左の沢に下りてしまった。踏み跡もあることからそちらを登ることとした。
立 ち 休 み	10:10	踏み跡は固い壺になっている。しかし急登の連続だ。所々でキックを入れる。この登りの途中で高橋夫妻はアイゼンを付けた。
ピッケル登高へ	10:55	更に急登が続く。雪を四つん這いで登る所もあり、ストックを持ち替える。
稜 線 間 近	11:24	ハイマツ帯となり、棚状箇所ですぐに休み、笹だんご他を食べる。
稜 線 に 上 が る	11:40	休憩も含むが概ね90分の急登連続から解放された。ここから山の家は見えなかった。大源太山の対岸に12日前に登った小出俣山が見える。
平 標 山 頂	11:55～13:10	日差しはあるが、風は冷たい。柵柱を利用してツェルトを張りランチタイム。平元新道経由で上がって来た単独男がやって来た。本日の入山者は計5人である。
木道を外れて雪斜面下降	13:40	景色を楽しみながらの雪尾根下りから夏道に乗り、のち、露出した木階段を下りる。途中から左の雪斜面を降りる。雪が緩んで来て足元はしっかり止まる。快晴となる。
松 手 山	14:10	H1677で休み、登り返しからここに上がる。標柱は雪の下。
巨大鉄塔下	14:40	少し休み。単独男が追付き先行した。この後、彼の後を追うが、別尾根を下っている。後ろから声をかけて修正。ロープをまたいで一部露出する夏道に上がる。
進路違い	15:10	雪歩きで、以前間違っ下りた別荘地裏に出る尾根を進んだ。後ろから声が掛かり、トラバースして左の夏道に修正する。この下りだが、まばらに雪から露出する岩と樹木で下りにくい。迷った方の尾根を下る方が楽だと思った。
三 国 小 学 校 脇	15:50	歩行終了。単独男の車が合図を鳴らし、浅貝方向に走って行った。

10日に伴場と歩こうと話をしていて、長岡HCと大峰山に向かうことになり、反古にしてしまった。そこで天気予報の良いこの日に、三つの山の候補を挙げ、彼女に選択して貰いこの山となった。高橋夫妻にも声を掛けて楽しい山行となった。しかし、登った尾根はGPSデータで斜度33°だった。多少の緊張とかなりのアルバイトであった。